

K G U 関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

特別広告企画

AERA

Kindness
in
Every Action

座談会

世界の
誰もが幸せに
暮らす方法を
考える

Well-beingな 社会に必要な 『やさしさ』とは？

様々な分野で国際化が進む今、「多文化協働」が重要となる。
誰もが国籍や文化を問わず協力し合える「やさしさ」のある社会の
実現には、どんなスキルや精神が必要なのか。大学と企業が語り合う。

座談会参加者

構成／株式会社 POW-DER 座談会原稿／松田明子 座談会
撮影／永田雅裕 イラスト／高橋由季 デザイン／フロッグキ
ングスタジオ 制作／朝日新聞出版メディアプロデュース部
ランドスタジオ 企画／AERA AD セクション



関東学院大学
国際文化学部長
とう しょう
鄧 捷さん



株式会社すかいらく
ホールディングス
ありむら ひとし
有村 仁さん



AERA
ブランドプロデューサー
木村恵子

「やさしさ」のはじまりは「違い」を理解し合うこと

国籍や文化の違いを超えて
同じテーブルで話す

木村 文化や国籍を問わず、誰もがウェルビーイング※1である「やさしい社会」を実現する上で、ひとつのキーワードに「多文化共働」があると思います。有村さんは、これまでのお仕事の中で、多文化共働を意識したことはありますか？

有村 当社のレストランには、年間約3.5億人のお客様が来店されます。そこに安全でおいしい料理を提供するために、食材を調達するのが、私たち購買部の仕事です。畜肉（牛肉や豚肉）だけでも年間数十億円規模で仕入れを行うため、国内外を問わず、様々な文化や背景を持った取引先・生産者の方々との「協働」が欠かせません。お互いに生活環境や仕事内容は異なりますが、「品質の良いものを、適正な価格で供給したい」という思いは同じです。ですので、私はみな同じ目線や気持ちで仕事に取り組みたいと思っています。

ますし、その思いが相手にも伝わるように心がけています。



木村 どうしたら思いは伝わるのでしょうか？

有村 まずは相手の立場に立って、理解しようとする姿勢が大切です。例えば海外では、食品の品質検査の基準が日本とは大きく異なります。それを始めから「そのやり方は違う」と否定すれば、相手も反射的に「あなたの方が間違っている」と言ってくるかも知れません。重要なのは、双方の条件をひとつのテーブルの上に並べて、違いを比較・検討するという姿勢です。2025年度にマレーシアのフードチェーンを買収した際にも、最初に「あなたたちが今までやってきたことは間違っていない」と伝えることで、先方も安心して、レスポンスを返してくれました。そして、結果的に彼らも日本の検査

基準に目新しさを感じ、「面白い」と前向きに捉えてくれたんです。相手を否定せず、違いを理解し合うことが、話し合いの突破口になると実感しています。

鄧 現場では、言葉の問題もあると思います。有村さんは英語が得意なのか？

有村 いえ、今も勉強中です。実は私が初めて海外に行ったのは27歳のときなんです。大学時代はバスポートも持っていないで、社員研修で初めてアメ



鄧さんが学部長を務める関東学院大学 国際文化学部では、「多文化共生の担い手」となる学生の育成を目指している。

物化理解」ととても大切なことです。国際文化学部の教育でも大きな柱だと思いますが、学生にはどんな姿勢で学んほしいと考えますか？

鄧 本学部では、英語をはじめ複数の言語を学ぶことができますが、重視しているのは「異文化コミュニケーションに基づく言語教育」です。学生には、自分と違うものが「なぜ違うのか」を、好奇心を持って知ろうとする姿勢を大切にしてほしいですね。すぐに否定するのではなく、背景や仕組みを知ろうとしてほしい。例えば、私は中国に関する授業やゼミを担当していますが、近年の日中関係の影響もあり、中国にネガティブなイメージを抱く学生は少なくありません。だからこそ、私はゼミの学生を募集する際には、「中国嫌いの学生大歓迎」「あなたが中国のどこが嫌いなのか教えてくれたら、その理由を一緒に考えましよう」と伝えていきます。若い人は、差別的な感覚・考え方に影響されやすい。なぜならそれは、単純でわかりやすいからです。でも、それに反論するときには、複雑な説明をしなければなりません。だから、若い人が受け入れやすいように、一言で、インパクトをもって説明することはすごく難しいんです。

木村 単純でわかりやすい言葉は伝わりやすい。でも、現実はずっと複雑です。わからないことを理解しようと試みるこそが、コミュニケーションなのだと思います。

鄧 その通りです。私もあなたも、一

「なぜ違う？」
好奇心が
最初の一步



K G U 関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

関東学院大学
国際文化学部 教授
鄧 捷さん

中国湖北省生まれ。1991年、北京大学方言語文学学部日本語学科卒業。2003年、東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程満期退学、2006年修了。博士（文学）。2011年に関東学院大学に着任し、2023年から現職。

株式会社すかいらーく
ホールディングス

購買本部
購買政策グループ
購買企画チーム
有村 仁さん

1996年新卒入社。店舗でのマネジャー業務などを経て2003年に購買本部畜肉チーム配属となり食材調達で様々な国・地域で活動。現在は予算やバイヤー育成、海外拠点の店舗調達支援等のため、アメリカ、マレーシアを中心に業務を実施。

AERA
ブランドプロデューサー
木村恵子

「ジュニアエラ」「AERA with Kids」編集長を経て、2022年4月～2025年3月まで「AERA」編集長を務める。2025年4月AERAブランドプロデューサーに着任。多様で寛容な社会を広げる「やさしくなりたい。プロジェクト」を推進中。

※1 Well-Being。「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」として定義される概念。



**世界に一步踏み出すと
自分が見えてくる**

木村 キャンパス内に留まらず、社会や世界につながる取り組みもされているのでしょうか。

鄧 本学部では、国際交流にも力を入れています。例えば、欧米のほか、インドネシアやフィリピン、中国や韓国など、海外に訪れるプログラムがあり、日本語を学ぶ現地の学生と交流したり、子どもたちに日本語を教えたりする機会を設けています。海外に行く、やはり学生は大きな刺激を受けます。

有村 すばらしいですね。私自身も

マレーシアに行つて、多くの人がマレー語と英語の2カ国語を話し、加えて中国語が話せる人もいるということを目の当たりにし、大きなショックを受けました。複数の言語を持つことには、大きなアドバンテージを感じます。そういったカルチャーショックは、現地に行かないと体感できないものだと思います。

鄧 東南アジアは「複言語」「複文化」※2と言われるように、多様性に富んだ地域です。カルチャーショックを受けることは、自分自身を疑い、見つめ直すきっかけにもなります。本学部では、2年生時から海外体験を行う機会があります。内向きに見えていた学生でも、海外を体験することで意識が変わることはよくあります。違う文化圏が鏡となり、自分自身が見えてくるのです。そして、「なぜ学ぶのか」を考えるようになり、意欲が湧いてきます。

有村 私も接客業志望で入社し、最初は店舗マネージャーでしたが、人事からのキャリアアップアンケートをきっかけに、海外に興味を持つようになり、希望した購買部に異動した途端、オーストラリアの取引先とのやりとりが始まり、電話もメールも当然、覚えての英語で対応せざるを得ませんでした。さらに、貿易や畜肉のことも、イチから勉強しなければならず、まるで転職したような心境で、でも、会社がそういう機会を与えてくれたことに、とても感謝しています。そういったことを思えば、学生のうちに海外にふれ

られることは利点です。学生さんたちには、できれば「苦い思い出」をつくらせてほしいですね。「うまくいかなかった」ことは、すくなく印象に残るので、私も27歳で初めて渡米した際に、上司から「レシートを3枚持ってくる」というミッションをもらいました。つまり、自分ひとりで、3か所で買い物してきなさいということ。お店を探して、商品を選んで、勉強してきたとおりの英語を話したら、声が小さくて向こうに聞き返されて、ますます萎縮する……、そんな体験もしました。もちろん落ち込みましたが、失敗が大きな学びにつながったと感じています。

※2 一人ひとりが複数の言語や文化を身につけ、共存している状態のこと。



人ひとりが複雑な条件を抱えているはずです。有村さんのお話のように、お互いの細かい条件をテーブルの上に並べて比べ、同じ点と違う点を探します。そして、違う点の中にも似ているところを見つけ、妥協点を探していくのです。このプロセスは難しくて複雑なので、忍耐力を持ってじっくり取り組まなければなりません。教育でも、その重要性を、忍耐強く学生に伝えていく必要があると感じています。

**「つなぐ力」が
未来の社会を動かす**

木村 26年度からは、国際文化学部にまさに「多文化協働」コースが新設されます。設立の背景を教えてください。

鄧 日本社会は今、外国人の数も増え、様々な背景を持つ人々が共生する社会

へと変わりつつあります。その流れを受けて、多文化協働コースを設けました。異なる文化を持つ人々と働くための技能やノウハウを学びます。今後は海外だけでなく、国内で働く場合にも必要となる力です。

木村 具体的には、どのようなことが学べるのでしょうか？

鄧 国際協力と開発、教育、言語と大きく三つの分野があります。前者は分かりやすいですが、後者の二つは教育と言語による支援のこと。特徴として二つの資格が取得できます。ひとつは「社会教育士」です。社会には、行政や企業をはじめ、「縦割り」型の組織が多い。社会教育士は、組織の間に入り、「行政と民間」「学校と地域」などをつなぐ役割を担います。ネットワークをつくる人ともいえます。もうひとつは、外国人に日本語を教える「日本

語教師」です。授業では、「やさしい日本語」や「やさしい英語」も学びます。外国の人にとっては、日常の中にも「難しい日本語」がたくさんあるのです。外国人である私自身にも経験があります。子どもの保育園の餅つき大会で、持ち物に「三角巾」とありましたが、私は「四角巾」「四角い布」しか知りませんでした。悩みに悩んでタオルを持たせたところ、先生がハンカチを折って息子に貸してくださいました。つまり、「四角い布を折ったもの」が、三角巾だったんですね。もし「髪が落ちないように頭にかぶる布」と説明されていたら、私もわかったはず。つまり、文脈まで含めて説明すると、言葉が「やさしく」なるんですね。この例は笑い話ですが、例えば災害が起こったときに、行政が発する言葉が外国人に伝わらないのは本当に困り

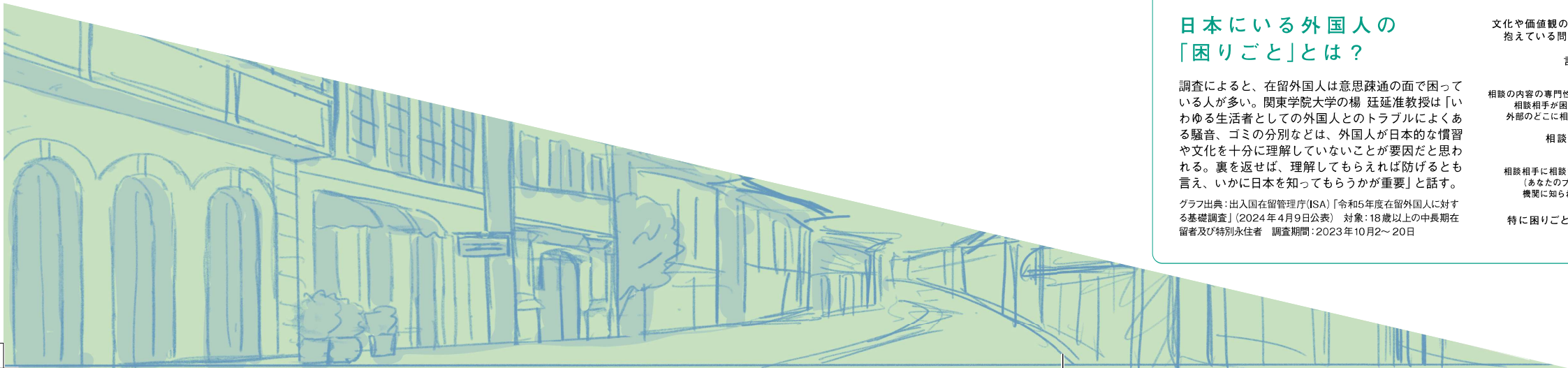
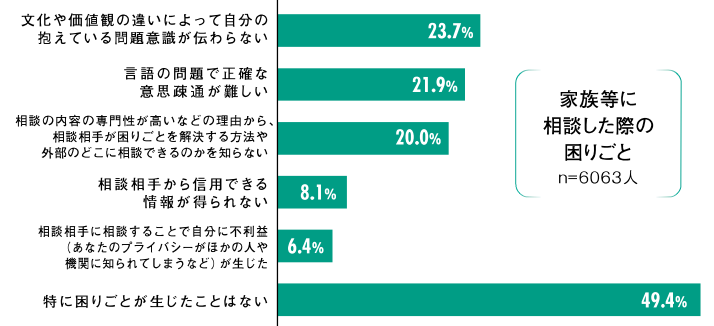


column

日本にいる外国人の「困りごと」とは？

調査によると、在留外国人は意思疎通の面で困っている人が多い。関東学院大学の楊 廷延准教授は「いわゆる生活者としての外国人とのトラブルによくある騒音、ゴミの分別などは、外国人が日本的な慣習や文化を十分に理解していないことが要因だと思われる。裏を返せば、理解してもらえれば防げるとも言え、いかに日本を知ってもらうかが重要」と話す。

グラフ出典：出入国在留管理庁(ISA)「令和5年度在留外国人に対する基礎調査」(2024年4月9日公表) 対象：18歳以上の中長期在留者及び特別永住者 調査期間：2023年10月2～20日



やさしい学びをはじめよう

海外で支援活動をするには？

現地の課題に向き合う際には、出身や肩書を超えて現地の方や関係者と、解決への思いを共有できる関係性を築くことが大切です。実際の活動では、まず自分に求められるものを当事者目線で考え、目標設定と行動計画を検討。それを、関係者の役割を明らかにし、常に状況を共有しながら実行します。また、多くの人にメリットを示して活動資金などの支援をしてもらう循環を作るためにも、相手の立場に立って考え、発信することがとても重要です。

柏崎先生の活動に欠かせないアイテムは



ソーラーランタン
日本でも愛用。就寝時や夜歩きに大活躍。



クリップボード
紙を挟んでメモ＆スケッチ。帰国後のスキャンも楽。



ベビーパウダー
暑い国での湿気対策に現地で調達したお気に入り。



関東学院大学
国際文化学部

かしわぎ なおこ
柏崎 梢 准教授

カンボジア・ソーラーランタン支援プロジェクト

簡易ライトが電池不足で現地で活用しきれなかった反省をもとに、企業と連携してソーラーランタンを販売・現地に届けるゼミ活動。

「やさしい日本語」を話そう

この学びは、単語や文法の「易しさ」と思いやりの「優しさ」両方の意味を持ちます。生活者としての外国人は日常会話を日本語で行える方が多いため、Q1、2は単語を易しくすれば伝わりますが、Q3、4は日本文化への理解がないと難しい可能性も。その解決には、日本に住む人々の異文化理解に関わる「優しさ」が重要になります。

「やさしく」言いかえよう (答えは下に)

Q1 ご不明な点やご質問等は、
挙手にてお願いします。

Q2 試験の際は、筆記用具以外は
使用しないで下さい。

Q3 資源ゴミの収集は、隔週の水曜日です。

Q4 車内ではマナーモードに設定の上、
通話をご遠慮下さい。



関東学院大学
国際文化学部

ヤン ジョンヨン
楊 廷延 准教授

やさしい日本語

日本語教諭にも必要なスキルとして、日本語を母語としない人にもわかりやすい簡単な日本語で話す実践的な技能を身につける。

答え：A1. わからないことは、手をあげて聞いてください。 A2. テストの時は、鉛筆と消しゴムだけを使ってください。 A3. ペットボトル、びん、段ボールなどは、1週目と3週目の水曜日に捨ててください。 A4. 電車の中では、電話の音が出ないようにしてください。電話で話をしないでください。

外へ頻繁に訪問するようになってから感じるのは、相手は生活してきた環境が違うので、当然ながら私たちと考える方も常識も違うということ。そのバックボーンを理解して寛容になる、つまり自分のアロワンス（共用範囲）を広げることが、「やさしい社会」をつくる第一歩になるのではないだろうか。

鄧 本学の校訓は「人になれ 奉仕せよ」です。現在は社会連携教育を標榜し、「課題解決の力を育み社会に貢献できる人材育成」を目指しています。日本は先進国ですので、いかに国内外にいる外国人に援助を行うか。しかも、援助することで日本も成長するような取り組みであることが重要です。私たち

は、例えば海外で援助の体験をした学生自身も成長できるような学びを提供することを目指しています。また、私は、医師の中村哲さん※3の、弱い人を助け、互いに助け合って生きること、を教えるのが教育だと思う、という旨を語った言葉に深く共感します。本場に優秀な人とは、学歴や偏差値が高い人ではなく、ほかの人を思いやり、助けることができる人です。自分に余裕がある時はもちろん、余裕がない時でも、できる限り助ける。みんながそういったことを自然にできる社会になるといいですね。それが本当に「やさしい社会」だと思います。

※3 35年以上にわたり、アフガニスタンやパキスタンで医療や干ばつ対策等の支援活動を行った日本人医師。2019年にアフガニスタンにて武装勢力の襲撃に遭い、死去。

木村恵子の編集後記

自分の物差しだけで物事を見れば単純でわかりやすいけれど、人によって尺度が違うからこそ複雑で、だからこそ面白い。今後は日本国内でも、異なる文化や背景を持った人同士が協働する場面がますます増えていくはず。好奇心と寛容さを持って違いを理解し、共に歩もうとする姿勢が、「やさしい社会」をつくっていくのだと実感しました。



捜真女学校高等学校 3年

岡島由奈さん

違いを否定せずに、互いを知り、理解し合おうとする姿勢は、国際的な場でも身近な人との関わりの中でも大切に、多文化共生に不可欠な事だと思いました。未だ日本でも海外でも、差別意識を持つ人々は少なくありませんが、自分の周りの同年代の友人は寛容で視野が広い人が多く、状況は少しずつ変わりつつあるのかもしれないと感じます。自分の軸を持ちながら、多角的な視点で物事を捉え、他者との違いを理解し受け入れられるような頭の柔らかい人でありたいです。そう考える人が多い社会は、どんな状況下でも助け合える、やさしい社会に近いのではないかと思います。

AERAサポーター高記者レポート

特別広告企画



主体性と創造性が
人生にプラスαを生み出す

木村 多文化協働を実現するために、若い人たちにはこれからどんな力を身につけてほしいですか？
鄧 将来どんな仕事に就くかにかかわらず、まず主体性を持ってほしいです。自分で考え、自分の言葉で話し、違う意見を持つ人に対しても自分の意見を表明して議論ができる、そういった力を身につけてほしいですね。就職して働く時も、会社や上司に言われるままに仕事するのはよくないです。自分が自分の主になって働く、つまり、ちゃんと自分で考えて仕事をするということです。そして、主体的な人間になるために、やはり勉強が必要です。高

自分も相手も
成長できる
「助け」の手を



校生みなさんは、「宿題が出るから」「受験があるから」と仕方なく勉強している人も多いかもしれません。けれども、大学では、「自分」という人間をつくるための勉強が本格的に始まります。人文学の学びを土台にしている国際文化学部は、私たち国際文化学部の意義は、こういった教養を持つ人間を育てるということも重要であると思っています。

有利 仕事をする上で、主体性は本当に重要です。私がひとりで海外の取引先と交渉する時は、いわば私が会社の代表という思いでやっています。「自分が社長であっても、コストやリスク面も含めて、本当にそう判断するのか」と、常に自分に問いながら行動しています。そして、言われたままではなく、プラスアルファで何かを持って

帰ってくる。そういった創造性も、非常に重要だと感じます。

**互いに助け合える人が
本当に優れた人**

木村 最後に、「やさしい社会」の実現のために、具体的にどんなことが大切になると思いますか？
有利 当社には、ラオス産コーヒーの購買額の一部を寄付し、NPOを通してラオスの子どもたちに絵本を贈るプロジェクトがあります。私が現地で出会った女性は、贈られた本をきっかけに日本語に興味を持ち、日本で学んだ後、ラオスの日系企業で働いているということでした。こうした循環こそが、企業としてのグローバルな「協働」のひとつの形だと感じます。また、海

海外で現地の人と仲良くなるには？

話が弾むのはどんな話題？

- ・趣味や特技など**家族のちょっとした自慢話や笑いネタ**
- ・**現地の名物フード**について話したり食べたりで家族同然に！
- ・「部屋が寒くて冷蔵庫みたい！」など**例えを交えたジョーク**

共通点を見つける＆ポジティブな内容を選びつつ、「あなたのことをもっと知りたい」という姿勢を、いつもよりオーバーに言葉や態度に出すことがポイント。日本のマンガ・アニメやゲームなどは、高確率でその場は盛り上がるものの、それ以上にも以下にもならず、関係を深めることにはやや繋がりにくく感じることも。

知っておくべき文化とは？

- ・忘れると国際会議で恥をかくことも？「**お土産文化**」
- ・**日常的なタブー**に配慮する姿勢が信頼につながる！
- ・地図を見て**土地柄や地名**を把握しておくとお話も円滑に

お土産文化は特にアジア圏で盛んで、ソフトキャンディなどちょっとしたものでOK。タブーは、特に宗教的なものには要注意だ。今やグローバル化が進み、特に都市部や観光地などは、地域ならではの文化が見えにくくなっている面もある。活動やコミュニケーションの中で違いに気が付いたら、質問して理解することが大切。

監修：関東学院大学 国際文化学部 柏崎 梢 准教授

2026年4月
コース新設

多文化共生と異文化理解に貢献する 3 コースへ

関東学院大学 国際文化学部が進化!

「文化」の学びを土台に、国際化する社会のなかで自ら考え、動く

国際文化学部は、異なるバックグラウンドを持つ人とコミュニケーションを取るだけでなく、より深く関わり、ともに何かを成し遂げるため、自ら考え行動する人を育てる学び場だ。2026年度から従来の2学科を国際文化学科の1学科に統合し、3コースを新設。学びの土台となる**基盤科目の充実**や、自分の所属以外の**コースの専門科目を履修できる仕組み作り**によって、多様なアプローチで専門性を深められるカリキュラムに進化する。

学びの特徴

世界の文化・歴史・言語の学びをベースにしつつも、社会と連携して実践的なスキルを磨くことを重視し、多くの演習系科目を開講。特色ある「現地研修科目」と、古典や哲学からポップカルチャーまで多岐にわたる文化や歴史、多様な外国語を学ぶ「講義と演習」を3コース共通の柱とするほか、「データサイエンス科目」「KGU キャリアデザイン入門」など、社会での実践を見据えた科目も幅広く設けている。

社会と連携する
フィールドワーク



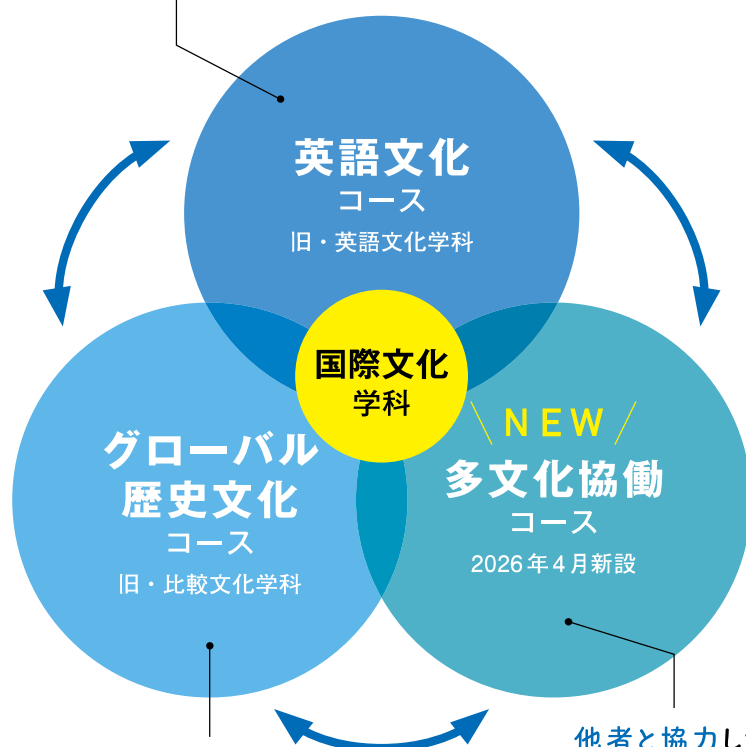
広く・深く文化を
読み解く講義と演習



国際文化学部
特設サイトはこちら

実践的な英語力と
確かな国際感覚を磨く

実践的な授業や学内外の国際交流活動を通じて英語で主体的に発信できるコミュニケーション能力を培うと共に、文化や英語学等から多角的に英語圏への理解を深め、国際社会で活躍する人材を目指す。



世界を歴史と
多彩な文化から掘り下げる

今と未来を考える力、多様な背景を持つ人々と共に生きる力を養うため、日本を含む世界を歴史と文化の両面から探究。映画や美術など自分の興味に応じて自由に学びを広げることができる。

他者と協力して
社会課題に取り組む

多文化共生社会で生じる課題の解決のために、国際協力・開発、言語、教育の三つの分野の学びや、学内外での様々な国際交流を通じ、他者と協働して解決を目指すことのできる人材を目指す。

K G U 関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY



1884年に創立した横浜バプテスト神学校を源流とする総合大学。11学部を擁し、教室の中で学ぶ「理論・モデル」と、企業や自治体、地域と連携しながら実社会での課題解決を目指す「実践」の繰り返しで学びを深める「社会連携教育」を推進。これからの社会に貢献できる人材育成を目指す。

INFORMATION

横浜・金沢八景キャンパス



横浜・金沢八景キャンパス
横浜市中区六浦東1-50-1

横浜・関内キャンパス
横浜市中区万代町1-1-1

横浜・金沢文庫キャンパス
横浜市中区金沢3-22-1